

授業科目 構音障害Ⅰ（機能）

【担当教員名】 湧井 豊	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【概要】
機能性構音障害の症状、発生のメカニズムを知り、検査法、診断・評価の方法、必要な情報収集について学び、個々の症例に合った適切な訓練・指導プログラムの立て方及び実際の指導法についての技術を理解する。
3年次の必修科目「構音障害演習」に継続する講義であり、出席を重視する。

【学習目標】

- ・機能性構音障害に関する基礎知識
- ・構音検査法、診断、評価法
- ・訓練・指導プログラムの立案
- ・訓練・指導法の実際

回数	授業計画又は学習の主題		番号	
			学習方法・学習課題又は備考	担当教員
1	構音障害について	構音の発達 障害の種類、症状 発生のメカニズム	講義	
2	構音検査法	構音検査の目的、種類、方法 構音検査実習	講義と実習	
3	評価に必要な情報	医学、心理学、教育学などの関連領域からの情報収集について	講義	
4	診断法	診断とは 評価の項目とその基準	講義	
5	指導プログラム立案	指導プログラムを立てるために必要な知識 訓練の適応と予後	講義	
6	訓練・指導法（1）	聴覚弁別訓練の方法 実施上の留意点	講義	
7	訓練・指導法（2）	音の産生訓練の方法、実施上の留意点、終了判定	講義	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	機能性構音障害	本間慎治編著	建帛社	2000年 2400円
参考書	構音障害の指導技法	湧井 豊	学苑社	1992年 3500円
その他の資料	プリントを配布する。			

【評価方法】 出席及びミニテスト、定期試験により総合的に評価する。	【履修上の留意点】 3年次の必修科目「構音障害演習」の基礎となる講義であり、必ず履修しておかなければならない。
--------------------------------------	--